



2008年2月

今年はお正月。お正月の登場物にはたくさんあります。お正月だね。

図書館がズ

ほとくのすてきなあや  
みんなが順番に  
着ていくと...  
最後はどうなる?  
「お正月の登場物」



## お正月と読書

「こはの種を蒔き、こはをむくむく読書で  
心豊かな根っこが育つ」  
高村 和代

「読書の楽しさ」を語る時、忘れられないのは半世紀も前の幼き日、父や母・祖母が語ってくれた昔話。セピア色した写真を見るように今でも楽しい思い出としてよみがえってきます。

夕ご飯を終えると、茶の間の真ん中に置かれた火鉢の周りにひとり、ふたり...大勢の兄妹が輪になつて集まります。火鉢にかざした手がほっこりと温まり、くっつきあった体から温かな体温も伝わってくる頃になると、ほろ酔いかげんの父も来て座ります。お勝手仕事かひと段落し、濡れた手をエプロンでふきふき母も座ります。いよいよ楽しみな「お話」の始まり。

食後の話し手は主に父。父の語る昔話は、「牛若丸」や「那須の与一」など、そのほとんどが戦場での武勇伝。特に「シカも四つ足。馬も四つ足。シカを通れるところをどうして馬が通れないことがあるぞー」と、義経が家来の面々の先頭を切つて険しいがけ山を馬で駆け下りたという、世に言う「ひよどり」の逆落としの場面など、末っ子の私は、母のひざに抱きかかえられ、手に汗を握りしめて聞き入っていたこと。鮮明に思い出します。

過ごしたような気がします。小学校に入学し、図書館に本がいっぱい並んでいるのを目にしたとき、仰天しそうなほどうれしかったことも思い出されます。

三和小学校の子どもたちには、本好きな子がたくさんいます。  
絵本袋手に 書架を巡りし 児童が止り  
本を運びて 笑みこぼしおり

始業前の図書館、たくさん蔵書の中からお気に入りの本を手にした子どもたちが、パソコンの前に並んで、ピピッとバーコードをなぞり、本を借りています。

その一冊の本が、子どもたちの知的好奇心を満たし、まだ見ぬ世界を駆けめぐらせ、はたまた、主人公と一緒に疑似体験する中で、喜んだり涙したり...。人の気持ちに思いをはせることでしょうか。

近頃は、『豊かな心を持った子どもたち』という願いが、学校・家庭・地域社会で叫ばれています。読書は、まさしく「心の根っこを優しく、温かく包み、豊かにしてくれる」と、確信しています。

気候が良くなったら、図書館前のベンチがしつらえてある広いブランダで、子どもたちに本の読み聞かせをしたいな！ 今から、春の到来を心待ちしている私です。

高村先生は、三和小の校長先生。子どもにとっての読書を大切にされています。また市内小中学校図書館教育の推進担当をしておられます。

## 我が家の読書

「家庭文庫」を続けて  
矢島 良子

文庫を始めた頃、お母さんにだっこされて通ってきた赤ちゃんも中学生になりました。私の絵本との出会いは子育ての時。その質の高さに驚き、わが子に読んでやる楽しさを知りました。子どもたちは成長し絵本を卒業しましたが、私はまだまだ絵本に夢中で、この面白さを若いお母さんと幼い子どもたちに伝えたいという思いで文庫を始めました。

早期教育と称し、母親をあとたてるような情報が飛びかっていますが、幼児期は、知識を詰めこむ時ではありません。子ども時代を十分に楽しみ、成長するための土壌を肥やしていく時期だと思えます。家中で絵本を楽しんでもらえるきっかけになれば、と思っています。子どもは、自分に向けてられる家族の愛情を十分に感じていることでしょうか。



文庫の子どもたちはそれぞれに個性豊かで、私を楽しませてくれます。これからも、子どもたちの成長を楽しみに続けていきたいと思っています。

矢島さんは、蜂屋の自宅で地域のミニ図書館ともいえる「文庫ふきのとう」を平成六年から開いておられます。文庫のある月曜日を楽しみにやってくる子どもたちが今日もたくさん！子育てを応援されています。

# 読書タイム

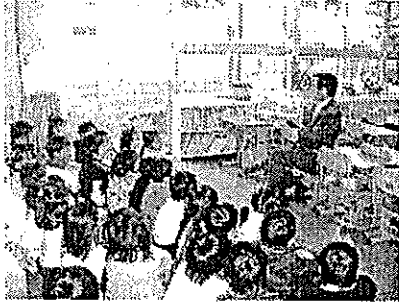
市内の学校・園・施設の  
子ども読書をのぞいてみました

下米田小学校では、年二回の図書館まつりを開催しています。全校の児童が図書館を利用して本に親しんでくれることを願って、委員会を中心に、企画・運営しています。

たとえば、パズルやしおりを作ったり、「私(図書委員)のおすすめ本」や「クラスの人気本」の紹介をしたりしています。今回は、特に「読み聞かせ」に力をいれました。

朝活動の時間に、校長先生をはじめ、担任のいない四人の先生が、各クラスを回って読み聞かせをします。子どもたちは、毎回、どんなお話が聞けるのか、ワクワクした気持ちで待っています。

お母さんたちの読み聞かせサークル「ママのぼけっと」(年六回)の読み聞かせは、スクリーンを使って絵本を大



きく見せながら行われます。夢中になって聞き入っている子どもたちの表情はキラキラしていました。

## 下米田小学校

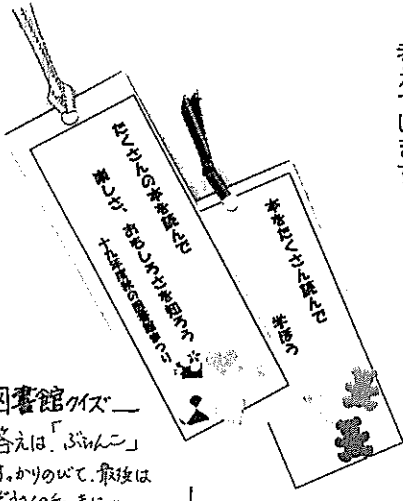


図書委員の読み聞かせも

あります。昼休みに置のスペースで自分たちの選んだ本を読むのです。練習を重ねたすえの本番。みんなの前での読み聞かせのときはドキドキの様子でした。

図書館まつりの二週間は、朝から一日中読み聞かせの企画があり、子どもたちはいろんな本にいろんな場所で接することができました。読み聞かせで聞いた本を借りる子もいました。

これからも委員会の活動を中心に、図書館司書やボランティアの方の協力を得て、一人ひとりが充実した読書活動ができるように指導していきたいと考えています。



### 図書館クイズ

答えは、「ぶんこ」  
す。かりのびて、取扱は  
ぞうさんの指で...  
で、お母さんには、ぶんこ

### えほん

「まあばあさんのゆきのひのピクニック」 岩崎喜太郎 一三三頁  
まあばあさんはあそびの名



人。たんじょう日なのに「きげんななめの、のちゃんに、いろんな雪あそびを教えてください。」  
「雪つり」でドングリを探したり、雪の玉をころがしたり...  
でも、大きくなりすぎた二つの雪の玉！とても重くて乗せられません。さて、まあばあさんはどうやって「雪だるま」にしたでしょう？

### 物語

「ぼく見ちゃったんだ！」  
エリック・サンウオザン作  
ソニーマガジン 一〇五〇円  
僕は本が大好きで家中本だらけ。



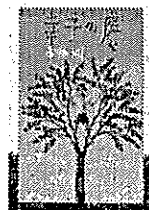
ある日、僕が店番をしていると変なお客さんがやってきた。気づかれないように、そっと見ていると、お

客さんは口にストローをくわえて本にさしている。いったい何をしているのでしょう。

### この本読んでみて

#### 小説

「幸子の庭」 本多 明作  
小峰書店一五七五円  
曾祖父が作った広い庭は荒れ放題になっていった。学校へ行けない幸子と同じ...その庭を、若い庭師が心をこめて剪定してゆく。様々な道具、無駄のない動き、木々を見つめる目。たった二日で庭は生き返り、清々しい風がふきわたる。



縮こまっていた幸子の心にも、新しい世界が見えてくる。

いま一度、周りをながめたくなる一冊です。

#### えほん

「子どもがつくるほんもの」  
はん「生きる力がつく」「食育」  
レシピ」 坂本廣子著  
クレヨンハウス一八九〇円

「食育」という言葉をよく耳にしますが、食べることだけが「食育」ではありません。子どもと一緒に料理を作ったり、食文化を伝えたり...。食事の時間を楽しく過ごすことが大切です。子どもを信じて一緒に料理をしましょう。できるたのしさ、学ぶよろこびを体験させることで、子ども自身の生きる力が育ちます。できることから少しずつ、料理体験させてあげたいですね。

